東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第２学年 国語科学習指導案	授業者	阿部 由美
	授業学級	３年Ｂ組（男子 18 名，女子 16 名）
授業テーマ	自分の生活に生きることば ～さまざまなフレーズと自己～	

１．本時の目標

○　自分に響いたフレーズについて自分の体験をふまえて紹介することができる。

○　他者の発表を聞き自他の比較を通して思考傾向や志向の違いを認識する。

２．本時の位置づけ

自分に響くフレーズにはどのような特徴があるのかを考える単元。教科書に掲載されていた「論語」の章句をきっかけに、まずは自分が「論語」20 章約 500 の章句の中からこれがいいと思った自分の感覚に訴えかけるフレーズを拾い、それをカードに記す作業を行った。次に、「論語」から離れ、日常の生活の中で触れる様々なコンテンツの中から自分に身近なものをひとつ選び、そこで出会った自分がよい､好きだと感じた｢日本語のフレーズ」をいくつか用意させ､｢自分がよいと思うフレーズ」はどういった傾向があるのか、自分の性格や生活環境とどのような結びつきがあるのかを授業を通して振り返り、自分のもつ価値観について考える授業を行ってきた。この活動を通して子どもたちは「他者のことば」と「自分の価値観」を往復し自己の発見、認識を行う。本時は全８時間構成の６時間目にあたり、様々なコンテンツのなかから抽出してきた自分に響くフレーズを示し、なぜそれが自分に響いたのかを自分の言葉で説明すること及び、他者の発表を聞く活動を行う。

３．本時の概要

（1）すでに前時までにロイロノートで作成、提出した「自分に響くフレーズ」について班のメンバーに紹介し、なぜそのフレーズが自分に響いたかを説明する。また、他のメンバーが紹介するフレーズについて聞き、自他の思考傾向の共通点や相違点について考えることを目的とする。本時に至るまで以下の通りに授業を進めてきた。

第１時	論語の概要を知る
第２・３時	論語の章句の中から自分がいいと思ったものを選び、カードにまとめる
第４・５時	様々なコンテンツの中から自分がいいと思ったものをロイロノートにまとめる
第６時（本時）	前時の内容をグループで紹介しあって共有する
第７時	４～６時の題材をもとに３分間スピーチの原稿を用意する
第８時	スピーチを行う

（2）情報活用能力との関わり

前年度に引き続き、国語科では「情報」の定義を広義に取っており、この単元での情報は２点ある。まずひとつめは子どもたちが収集してきた「他者が発信した表現物（＝フレーズ)」であり、もうひとつは子どもたちが今までの人生の体験の中で培ってきた「価値観」である。この２点を照らし合わせてクラスメイトに紹介する過程で、子どもたちは自分の興味関心がどういった方向にあり、自分の置かれている環境や行事との関わり方、学級内での立ち位置など、自分に影響する物事を振り返ることになる。「自分に響いたフレーズ」を題材にして体験に基づくエピソードを自分の言葉で語って聞かせることは自己認識、自己開示、自己表現を網羅する行為で、受験やその後の進路で新しい環境に身を置く子どもたちにとって必要な力のひとつになろうと考える。

４．本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
〈１．導入〉　（８分） ・機材及び教材の確認。 ・今日の授業の目標の確認。	・PC 等必要な機材が手元にあることを確認。 ・配布物は付箋とそれを貼る紙。
・自分に響いたフレーズについて自分の体験をふまえて紹介することができる。 ・他者の発表を聞き自他の比較を通して思考傾向や志向の違いを認識する。	
〈２．展開〉（１）（20 分） ・ロイロノートの画面を見せながら自分が選んだ作品、フレーズを紹介し、なぜそれが自分に響いたかを４人グループ内で話す。（１人３分×４人） ・他の人の話を聞いて質問がある場合は質疑応答。その他感想を付箋に書く（１人２分×４人）	・後日スピーチ用原稿を書く際に PC がなくても他者からのコメントが見られるようにするため付箋の作業をアナログにする。
〈２．展開〉（２）（10 分） ・自分が身近に感じるコンテンツと他者が選んだコンテンツの違い、選んだフレーズ、それが響いた理由やそのことばを選ぶにあたってのエピソードを聞いて感じたこと、特に自他の「違い」について気づいたことを form に記入する。 ・教室内で数名の意見を共有する。	
〈３．まとめ〉　（５分） ・forms 未提出者への促し。 ・次回の授業の予告・確認。	